〇〇教室における感染症予防対策手順書（案）

１　目 的 　参加者及び従事者が感染予防を行うことで、参加者を感染症等から守ることができる。

２　方　　法　　従事者は「感染対策チェックリスト」を感染対策として使用する。

３　対 象 者　　教室申込者　〇〇名

４　所要時間　　〇〇時～○○時まで（○○分）

５　使用会場　　〇〇センター　○○室（広さ　㎡）

６　必要物品　　蓋つきのかごに準備する（教室の備品以外）

□擦式アルコール剤（有効期限を確認）□消毒用アルコール綿

□マイペット等消毒剤　　□キッチンペーパー

□非接触型電子体温計（２）　　　　　□接触型電子体温計（２）

□マスク　　□ラップ　　□輪ゴム　　□フェースシールド(アイシールド)

□パーテーション(アクリル板)

□ゴミ袋　　□ゴム手袋(劣化していないか確認)

７　感染対策チェックリスト

　＜参加者＞

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 項目 | 実施 | ☑ | 対応 |
| 事前連絡 | 体調及び留意事項の伝達 | ・参加する本人と家族の体調や参加にあたっての留意点を伝える。  ①新型コロナウイルス感染者との接触の有無  ②県外等感染流行地域への外出の有無  ③本人の体調の確認  　風邪症状（倦怠感、咽頭痛、咳、鼻水等）の有無  ④家族内の体調不良者の有無  ※当日朝の検温を依頼。発熱（37.0度以上）や体調不良がある場合は、〇〇(主催者)へ連絡してもらい、参加の可否を検討する。  ※当日は、マスク着用の上での参加を依頼する。 | □ |  |
| 受付 | マスクの着用 | ・本人・家族がマスクを正しく装着しているか確認し、未装着の場合は、マスクを渡し装着を依頼する。 | □ |  |
| 手指消毒 | ・入室前に擦式アルコール剤で手指消毒を行ってもらう。  ※明らかな汚れがある場合は、手洗いをしてから手指消毒を行ってもらう。  ※正しい手指消毒の仕方を確認・指導する。 | □ |  |
| 健康状態の確認体温測定 | ・現在の健康状態をチェックする。風邪症状（倦怠感、咽頭痛、咳、鼻水等）の有無。  ・体温を非接触型電子体温計で測定する。  ・家族で体調不良の方はいないか確認する。  ※37.0度以上の場合は、接触型電子体温計で測定。  ※再検し、37.5度以上の発熱がある場合は参加を遠慮してもらい、当日資料を渡す。 | □  □  □ |  |
| 教室中 | 飛沫の防止 | 参加者は、間隔を空けて指定席に座る。  ※途中、トイレなどで席を部屋を離れた後、来室時には手指消毒を行ってもらう。 | □ |  |

＜従事者用＞

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 健康 |  | ・所属健康チェック表に記載 | □ |  |
| 身だしなみ |  | ・爪は短いか、マニキュアは塗ってないか。手荒れはないか。  ・指輪、ネックレス、ピアスは外す。  ・髪が肩にかかっていないか。（肩に係る場合は束ねる。） | □  □  □ |  |
| 会場準備  受付 | 会場の清掃 | ・ドアノブ、テーブル、電気のスイッチをマイペット等で拭く。 | □ |  |
| 部屋の換気 | ・風が通るように、会場の窓と廊下の窓を開ける。（安全面を考慮し、1時間ごとに換気する。） | □ |  |
| 会場設営 | ・間隔を空け、前後と重ならないようにする。  （配席は机１台に椅子２脚までとする。） | □ |  |
| 受付 | マスクの確認 | ・マスクを装着する。 | □ |  |
| 問診 | 飛沫の防止 | ・参加者との会話は横並びで行う。（対面にはならない）  ・対面の時はパーテーション越し、またはフェースシールドを着用する。 | □  □ |  |
| 手指消毒 | ・明らかな汚染がある場合はその都度手洗いと手指消毒を行う。 | □ |  |
| 教室中 | 環境整備 | ・マイクにラップをかけ、マイクをまわす度に、除菌シートで消毒する。  ・風が通るようにし、過剰の窓と廊下の窓を開ける。  （安全面を考慮し、１時間ごとに換気する） | □  □ |  |
| 終了後 | 会場、使用した備品の清掃 | ・ドアノブ、テーブル、電気スイッチ、教室で使用した備品等をマイペット等で消毒する。 | □ |  |
| 帰所後 | 使用物品の清掃 | ・ゴミ袋を廃棄する。  ・マスクや鼻かみ等は個包装の袋に入れて袋を縛っ  　た後破棄する。 | □  □ |  |